

先日、地域支援の連携を考える「語ルシストの会」の5月の例会を開催しましたので報告&所見を記載します。

今回は4月27・28日に佐賀県での第1回精神科訪問看護フォーラム in 佐賀～精神科訪問看護の未来を想像する～という研修会にココロとカラダのリハビリステーションほのかのスタッフ5名の方が参加されてこられたので体験報告をお願いしました。

以下、4名の方の報告です。

講演で講師の話の中で利用者の主体性を最大限生かした訪問支援をすることが訪問看護として大事であるということを聞いて、改めて訪問看護について振り返ることができたフォーラムでした。

利用者の主体性を活かしたケアをするうえで、担当しているリハビリにも通じる内容で、利用者の方に対して無理に実施して嫌な気持ちにさせることなく、楽しく実施するには利用者の方が主体的に決めてもらって実施するほうが、利用者にとってもスタッフにとっても最良のケアプランになると思いました。

精神科を対象にした研修に初めて参加して理解できるとこと難しく感じて現場で使えるのか、と思いながらフォーラムの講演に参加しました。

初日の講演で言葉掛けについて、なぜ、どうして、という言葉を使うと相手が威圧感や萎縮するということを聞いて、現実の訪問で利用者の方にとっても使っていることを自覚することになり、これからもっと利用者の方が萎縮しないで答えられる言葉掛けをしていくことに注意しながら日々の訪問を行っていくフォーラムになりました。

フォーラムの感想ですが、初日の講演の主体性や自主性を活かした支援を実際行っているのか、ふりかえることになりました。

事例として、自立支援医療費に関する資料が送られてきたときに利用者にとどのように対応しているか、適切な対応ができているかふりかえり反省することになりました。

ひきこもり支援についての講演では、切っ掛けがあれば誰もがひきこもる現状にあるので、よき理解者を作ることが家族にとって大事であり、ひきこもりに関しては、訪問看護として家族が通院しているという状況でないと介入できないので、家族から相談受けたときの支援として、どう対応して支援していくべきか考えることになりました。

第1回の精神科訪問看護のフォーラムに全国各地から参加されていて、精神科の世界にこれほど積極的に参加されている方を見て純粋に凄いと思いました。精神科の方は調子の波があるので、それに振りまわされたり巻き込まれたりすることに自分が気づきながら、それを受け入れながら支えていけたらよいなど

思いました。

今まで県外での研修に行くときは、一人か二人ぐらいで行っていましたが、今回は5名の方と一緒にいったので、何だか旅行気分に入ることができて楽しかったです。

参加された方達が講演や WRAP の体験などから得てきたものや気づきを現場でいかに活かして、効果を得るための実践を行うか、実践によって研修会に行った費用対効果が生まれることになるので、得たものを無駄にしない為にも日々自らの専門職としての課題と向き合って、最善の支援を利用者に提供できるためにも職場や多職種の仲間と検証する場を持つことが惰性やマンネリ化を避け自分自身の活性化や前向きな気持ちにつながると思えます。

今回は、6月28日（金曜）、県福祉総合センター1階で予定しています。
事例報告は、まだ未定ですが、決まり次第お知らせします。

支援の差別化として積極性や挑戦的ということについて考察しました。
精神障がい者の地域支援は、単に生活を支えるだけでなく、個々の人生の質を向上させるための重要な要素です。この支援を効果的に行うためには、受動的なアプローチではなく、積極性や挑戦的な姿勢が求められます。

積極性とは、問題やニーズに対して前向きに取り組む姿勢を指します。精神障がい者の支援においては、次のような具体的な行動が含まれます。支援者が障がい者一人ひとりのニーズを深く理解し、適切な支援策を提供すること。問題が発生した際に迅速に対処し、必要なサポートを提供すること。障がい者の将来を見据えた長期的な支援計画を立て、予測される問題に対して事前に対応策を講じること。

挑戦的な姿勢とは、困難に直面しても諦めず、新しい解決策を見つけるために努力し続ける姿勢を指します。この姿勢は、精神障がい者の支援において次のような効果をもたらします。支援者が挑戦的な姿勢を見せることで、精神障がい者自身も困難に立ち向かう勇気を持つことができるようになります。既存の方法にとらわれず、より効果的な支援方法を探求することで、支援の質を向上させることができます。積極的かつ挑戦的な支援により、精神障がい者が社会活動に参加しやすくなる環境を整えることができます。

精神障がい者の地域支援において、積極性や挑戦的な姿勢を持つことは、単に支援の効果を高めるだけでなく、支援を受ける側の自己肯定感や社会参加を促進する重要な要素です。支援者は、常に前向きな姿勢で新しい方法を模索し続けることが求められます。このようなアプローチが、精神障がい者のより豊かな生活を実現するための鍵となるでしょう。